

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
56	川崎市立新作小学校	栗田 嘉也

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>「大地に根ざし、なかよくのびる すくすく麦っこ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び進んで創造する子 ・思いやりのある明るい子 ・健康でたくましい子 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの傍観者をつくらない未然防止と早期解決に向けた取組 ・不登校児童生徒の学習支援の拡充 ・高学年における教科担任制の実施と教員の専門性を生かした配置 ・外国語教育研究推進校として児童のコミュニケーション力を育む取組

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 いじめのない安心安全な学校	管理職・支援コーディネーターとの日常的な連携と、市教委のリーフレットに基づいた対応の徹底 いじめの傍観者を作らない学級づくり	いじめ対策会議を開催し迅速な聞き取りと指導、保護者への報告を行った。傍観者を作らない意識付けにより児童からの情報提供が増えた。	日常的な道徳教育に加え、差別や偏見をなくし多様性を認め合える人権教育を推進していく
2 危機管理体制の構築と徹底	災害時の避難手順と不審者侵入時のマニュアルの徹底と職員の対応力強化 熱中症の未然防止	日常的な危険個所の点検と校舎増築に伴う建築基準に基づいた工事と修繕を行った。児童のけがの対応で保護者への連絡の徹底が課題	児童の活動が活発になると共にけがも増えており遊び場所の安全管理と迅速な対応を徹底する
3 校内研究による授業改善とOJT	外国語・外国語活動を中心に、コミュニケーションを育むため、活動場面を大切に授業スタイルの確立を目指す	外国語・外国語活動の授業研究と職員研修による授業スタイルの確立、活動重視の取組を他教科にも生かされるようにしたい	協働的な学習と個に応じた指導を緻密に進めるため、引き続き授業改善とGIGAの活用を進めていく
4 日常的な授業改善とICT活用	教科担任制の導入と教材研究に費やす時間確保により、専門性を生かした日常的な授業改善を進めた	活動主体の授業が展開されているが、落ち着いた授業に取り組むことができない場面も見られた。学年で指導計画を共有し、場の設定も一貫して行っているが、児童によっては45分間持続できない様子も見られた。	児童の目線で魅力のある授業を考える、学習のルールとマナーを徹底する、個別最適な学びの場を提供する
5 40周年にむけて地域との連携強化	40周年事業をきっかけとしてコロナ禍で滞っていた地域との連携の再構築を進める	PTA役員との連携から、地域協力者との絆を作り、40周年記念事業実行委員会を組織することができ、学校行事にも応援をいただいた	通学路の危険箇所の調査が進められたが、安全対策の実現ができていない。引き続き関係機関に働きかけていく
6 情報公開とオンライン化の推進	google formを活用したDX化 ミマモルメ 学校WEBの活用学校だより学年だより等すべての配付文書の電子化と公開化	保護者との連絡にミマモルメの活用、職員間のクラスルームの活用、アンケート等調査のDX化を進め、働き方改革にも結び付いた	配付書類のDX化をさらに推進する。児童への情報モラル教育の徹底を継続する。
7 特別支援教育の理解と推進	児童の社会的自立を目指した交流支援と、個別最適な学びの提供	支援を必要とする児童の個別最適な学びを考え、保護者の協力を得ることができた。社会的自立への目標設定を意識していきたい	特別支援教育の研究者との連携による教育課程の監修と職員研修、保護者が相談しやすい環境づくりを進めていく
8 ゆとりをもって児童に向き合うための教職員の働き方改革	保護者・地域の協力の要請、専科教員・非常勤講師配置により、児童に向き合い、授業準備に集中できる環境づくり	面談の勤務時間内の実施、土日PTA行事への参加方法など、保護者の理解と協力が得られた。地域の指導員のリーダーシップによる施設開放が進められた。	校務分掌の徹底的な整理と文書の電子化、定例会議に頼らない情報交換の方法を模索している。R6年度周年行事が職員の過度な負担とならないようにしたい

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>学習に集中でない様子など、学校だけで解決できない部分もあり、保護者の協力を要請するべきである。</p> <p>保護者からの意見が両極に渡ることもありそれらを参考にしながらも学校が主体となって一貫性をもって判断することになるだろう。本年度は増築工事を進めながらも教育活動に支障は生じなかった。</p> <p>けが・いじめなどの迅速な対応と詳細な報告を心がけてほしい。</p>	<p>本年度は特に多くの保護者の皆様に助けて頂いた1年間といえる。時に厳しいご意見が結果として改善に結び付いた。本格的に活動が再開したことで、トラブルも増えたが、児童の社会的自立を目指して、自由な活動の中で改善を考えることで成長を育みたい。教科担任制を進めたことが授業改善だけでなく、チームでの児童指導にも効果が見られた。差別偏見のない学校を目指して人権意識の豊穡への取り組みを進めていきたい。</p>